要　望　書

有明海沿岸道路西部地区の整備促進について

写真：佐賀県立鹿島高等学校美術部によるデザイン（鹿島市）

未来へつなぐ…

令　和　元　年

有明海沿岸道路西部地区建設促進期成会
（諫早市・鹿島市・太良町）

本会を構成する２市１町（長崎県諫早市、佐賀県鹿島市、佐賀県藤津郡太良町）に係る道路整備の促進につきましては、日頃より格別の御高配と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今日、我が国の財政状況は厳しい状況でありますが、幹線道路網の整備により、住民の命と暮らしを守り、地域の活性化を図ることは、地方にとって非常に重要であります。

また、本格的な少子・高齢化社会への移行という社会構造の急激な変化の中で、安全で良好な生活環境を次世代に引き継ぐためには、社会・経済活動を支える道路整備のより一層の推進が不可欠であります。

つきましては、道路整備の積極的な促進と本会構成２市１町を結ぶ有明海沿岸道路や島原道路等と一体となった広域道路ネットワークの整備に対しまして、特段の御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

有明海沿岸道路西部地区建設促進期成会

会　長　　諫早市長　　宮　本　明　雄

有明海沿岸道路西部地区建設促進期成会会長之印

道路事業の推進及び整備促進について

道路は最も基礎的な社会資本であり、安全で快適な国民生活と活力ある経済社会を実現するため、必要不可欠で、また、熊本地震のような自然災害や原子力発電所の事故などの発生時には、既存道路が機能を十分に発揮できないことが心配されており、「命の道」として人々の移動や物流を確保し、救急医療にも対応するために代替道路や避難ルートの整備が求められています。

特に、鉄道等の他の交通体系が脆弱な地方においては、道路は地域住民の日常生活と密接な関係にあり、整備を求める地域住民の声には切実なものがあります。

しかしながら、その整備状況は都市部に比べると、大きく立ち遅れ、広域的な地域間交流・連携の障害となっており、「国土の均衡ある発展」には程遠い状況となっています。

つきましては、中央と地方の交通移動環境格差を十分認識され、これまで以上に地方の声や実情に配慮していただき、２１世紀の活力ある地域づくりのため、次の事項に特段の御配慮を賜りたく、強く要望します。

(1)　地域発展のために必要となる社会資本整備のための公共事業費を増額するとともに、令和２年度の道路予算は前年度を上回る規模で確保すること。また、老朽化する道路インフラの適切な維持管理ができるよう老朽化対策予算を別枠で確保すること。

(2)　「地方創生」、「国土強靭化」や「生産性向上」を図るため、重要物流道路を早期に指定し、多軸型国土構造の基礎となる地域連携軸を形成する上で、その交通基盤の中核となる地域高規格道路などの広域交通ネットワークの積極的な整備を一層推進すること。

(3)　災害に強い国土・地域づくりのために、防災対策の促進と代替性の高い道路ネットワークの整備を推進すること。

(4)　地方が真に必要としている道路整備を計画的かつ着実に推進すること。

有明海沿岸地域の幹線道路整備について

有明海沿岸地域の環状高速交通ネットワークの空白区間である鹿島市から諫早市までの区間について、重要物流道路・地域高規格道路としての路線指定及び、有明海沿岸道路や島原道路等と一体となった広域道路ネットワークの整備をお願いします。

（理　由）

佐賀県鹿島市、太良町、長崎県諫早市の地域は、幹線道路が一般国道２０７号のみであるため、平成２８年４月の「熊本地震」や平成２９年の「九州北部豪雨」、昨年の「平成３０年７月豪雨」のような災害時、さらには、原子力災害の事故等に備えた避難路としても、人々の移動や物流を確保し、救急医療にも対応できる「命の道」としての代替道路や避難ルートの整備が求められています。

有明海沿岸地域の福岡県、熊本県、佐賀県、長崎県の各地域においては、現在、沿岸地域を環状に結ぶ高速交通ネットワークを形成する５本の地域高規格道路の整備が着々と進められていますが、鹿島市、太良町から諫早市までの区間は、空白区間となっています。

このように環状交通網が途切れた状況では、本来の機能を発揮できず「人・物・情報」の動きが鈍く、災害に強い道路ネットワーク、広域的な交流・物流ネットワークなど平常時・災害時を問わない安定的な輸送が難しい状況にあるほか、この区間は、九州横断自動車道、長崎空港、九州佐賀国際空港などの高速交通施設へのアクセスが不充分なことからも地域の一体的発展の障害となっています。

これらの諸問題を解消し、災害に強い道路の整備と有明海沿岸地域の一体的な発展を図るためには、鹿島市、太良町から諫早市間において、地域間の相互交流及び連携機能を有する高速交通ネットワークの早期整備が必要であることから、本年度内に予定されている「重要物流道路の２次指定」及び「地域高規格道路等の再編・指定」において路線指定をお願いするとともに、一日も早く、本区間について、「地方創生」、「国土強靭化」や「生産性の向上」を図るため、有明海沿岸道路や島原道路等と一体となった広域道路ネットワークの整備をお願いします。

有明海沿岸地域環状高速交通ネットワーク

有明海沿岸道路や島原道路等と一体となった道路ネットワークの整備要望

過去最高の来訪者数約9万9千人（H30年度）

鹿島酒蔵ツーリズム

クロツラヘラサギ（絶滅危惧種の水鳥）の飛来

肥前鹿島干潟
（ラムサール条約湿地）

過去最高の利用者数約82万人（H30年度）

九州佐賀国際空港

年間約365万人の参拝者（H30年度）

祐徳稲荷神社（日本三大稲荷）

約2万人の観客動員数

鹿島ガタリンピック

一年中食べられる竹崎カニ

有明海沿岸地域
環状高速交通
ネットワーク空白区間
「鹿島～諫早」

竹崎カニ

豊かな自然と清らかな水に育まれた「たらみかん」

たらみかん

牡蠣日本一決定戦　初代王者

小長井牡蠣（カキ）華漣（カレン）

石橋として初めて国の重要文化財に指定

眼鏡橋（諫早公園）

人・モノの交流を生む道路が
地方創生、地方の成長へ繋がります。

～有明海沿岸道路「鹿島～諫早」をつなぐ～

大規模災害にも備えた防災機能強化！
地域の安全・安心を向上！

○玄海原発の５０km圏域にも、主要な市部（鹿島市など）が存在。

○より遠方へのスムーズな避難を可能とするため、規格の高い道路を利用した避難ルートが望ましい。

○鹿島市～諫早市間の有明海沿岸地域には、幹線道路が国道207号一本しかない。

～ピックアップ～
遠方への避難が必要な時

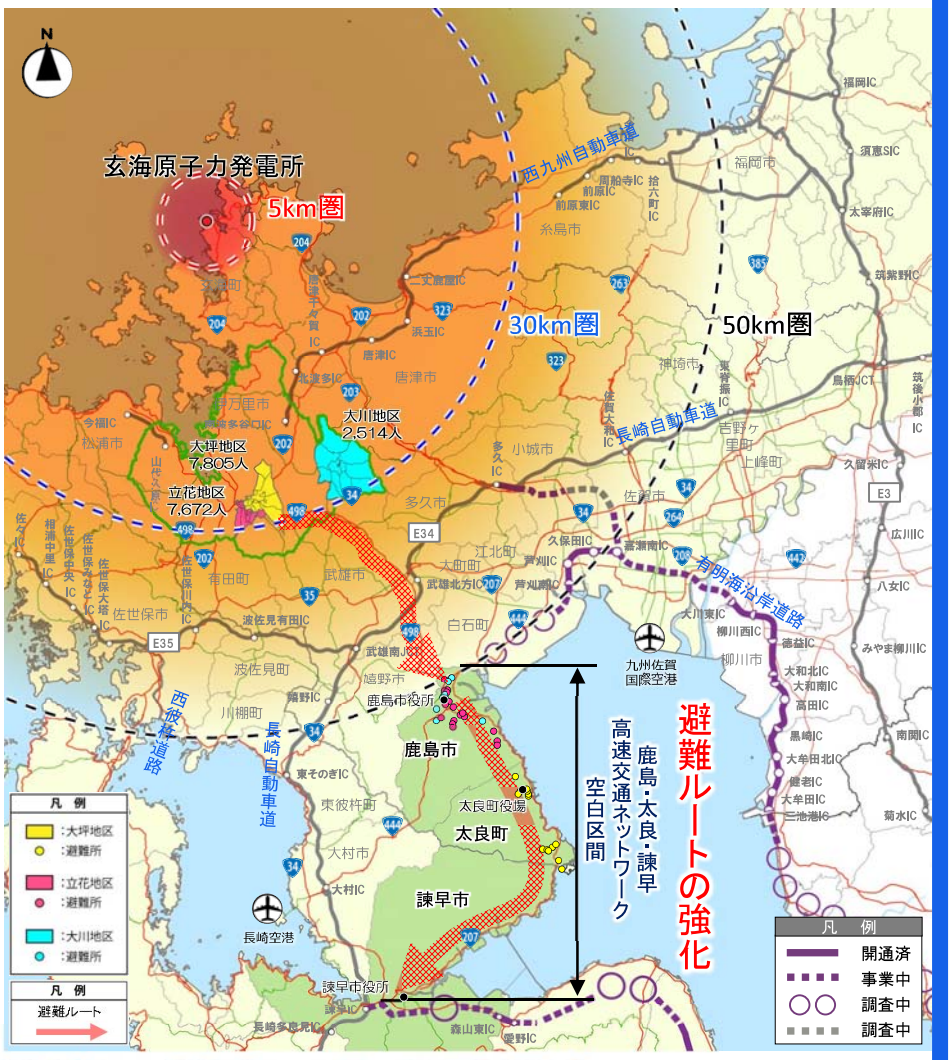
◆30km圏の外側では、各地域での空間放射線量の測定結果に基づき、避難が必要な地域を特定して避難などの実施が判断されます。
※30km圏内は避難計画を策定している地域

避難判断の基準	とるべき対応
毎時20マイクロシーベルトを超える地域	・1週間以内に避難（一時移転）
毎時500マイクロシーベルトを超える地域	・1日以内に避難

《佐賀県 原子力防災の手引き：2016年3月》

◆福島原発の原子力災害では、約50km圏に位置する飯館村も避難地域になりました。

《東日本大震災の記録と復興への歩み》
平成25年3月 福島県



「大規模災害に対応できる防災力」

避難時に安全、安心に移動するための「道路」が必要です。

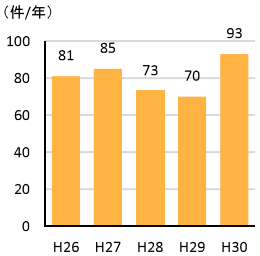
～有明海沿岸道路「鹿島～諫早」をつなぐ～

助かる『命』を守りたい！
『地域医療』を支える、高速救急搬送を!!

『3次救急医療施設への救急搬送』

救急搬送件数（太良町）

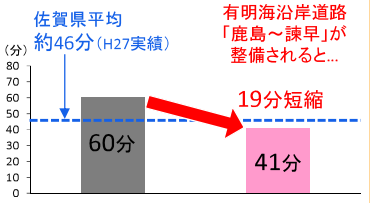
太良町から嬉野医療センター



※杵藤地区広域市町村圏組合消防本部(R1.6)

所要時間が短縮

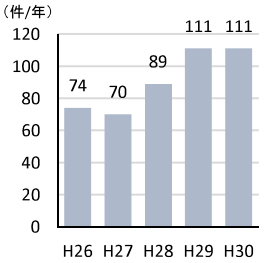
杵藤地区消防本部 太良分署 から 国立病院機構 嬉野医療センター



※出動場所は最遠地(県境)を想定、H27全国道路街路交通情勢調査で算出
※佐賀県平均の出典：H28年版救急・救助の現況[総務省]

救急搬送件数（諫早市）

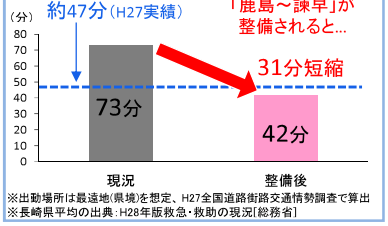
諫早市から長崎医療センター



※諫早消防署ヒアリング(R1.6)

所要時間が短縮

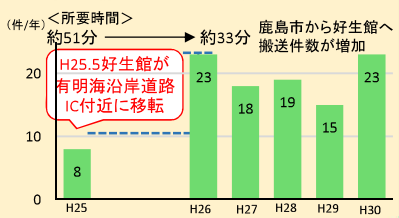
諫早消防署 高来分署 から 国立病院機構 長崎医療センター



※出動場所は最遠地(県境)を想定、H27全国道路街路交通情勢調査で算出
※長崎県平均の出典：H28年版救急・救助の現況[総務省]

～ピックアップ～

有明海沿岸道路の整備により、
救急搬送先の選択肢が拡大



杵藤地区消防本部 ヒアリング：2019年6月

●地元の声

子育て中の母親としては、諫早まで早く行けると病院の選択肢も増えて安心できる。

太良町ヒアリング
：2017年8月

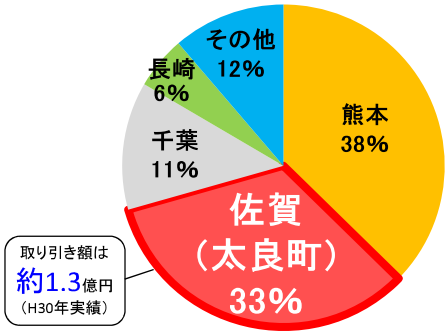
「高速道路ネットワーク整備が地域の救急医療を変える」

命を守る、医療を支えるための「道路」が必要です。

～有明海沿岸道路「鹿島～諫早」をつなぐ～

有明海産『コハダ』の輸送距離短縮
荷傷み軽減、より新鮮なまま東京へ！

東京都中央卸売市場 取扱量シェア
全国No.2

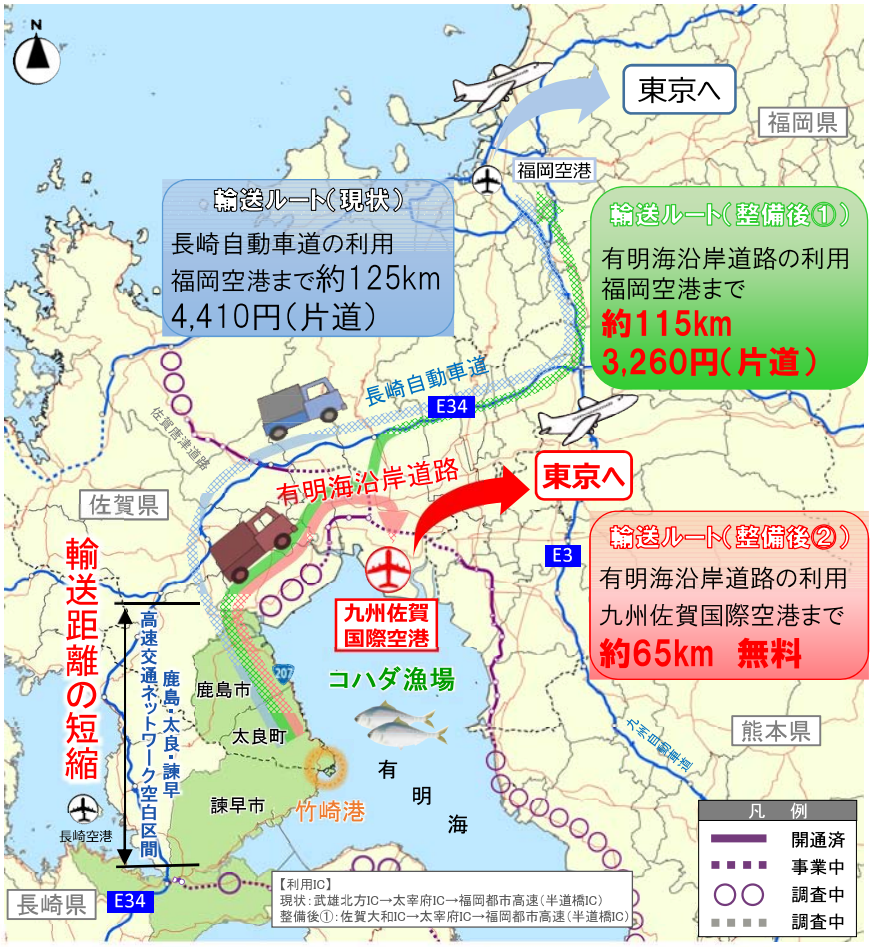


資料：東京都中央卸売市場統計年報（H30実績）

～ピックアップ～
有明海産『コハダ』の価値向上に期待

◆空港までの輸送距離が大幅に短縮されることにより、キズなどで傷みやすい『コハダ』の鮮度を保持し、更なる価値向上に期待がよせられる。

太良町竹崎港で水揚げされる有明海産『コハダ』



江戸前鮨に欠かせない有明海産の『コハダ』
東京への新鮮な出荷を支えるための「有明海沿岸道路」が必要です。

「佐賀県太良町竹崎地区 コハダ漁師座談会　2017.8.30開催」より

地域の漁業発展のため、私たちには有明海沿岸道路が必要です。

『コハダ漁師座談会』

- 特産の「コハダ」漁業に係る有明海沿岸道路への期待、地域の活性化に繋げたいとの思いから開催。
- 有明海沿岸道路の整備により、出荷輸送距離の短縮に期待！

コハダ漁師座談会～私たちの有明海沿岸道路どう使いたい～の様子

●獲りすぎてコハダの数が減らないように水揚げ量を調整し、品質・価値を落とさず漁場を守ってきた。守りながら伝え続けている事が、東京市場でも受け入れられているのではないか。

●投げ網漁は直接魚を触らないため鮮度が保たれる。コハダは手で触ると傷みやすい魚。
氷を入れて箱詰めするので、荷傷みせず鮮度を保つには輸送距離をもっと短くする事が必要。

●「コハダ漁師の妻勉強会」ではコハダで竹崎に人を呼び込むための料理研究などに取り組んでいる。

●小売りの販路を広げたいが家事など時間制約がある。早く移動できる道路があれば効率よく捌ける。

～ピックアップ～

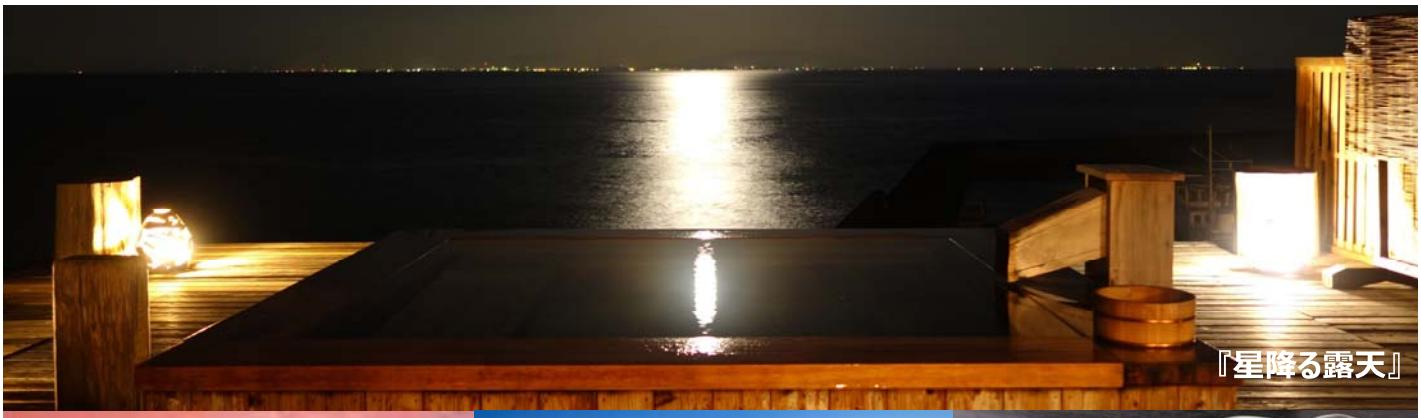
竹崎の漁師たちが行う「投網漁」は、手を触れずに獲る伝統技術。この点で他と鮮度がちがう。

伝統漁法『投網漁』

有明海の漁業を支え発展させるための「有明海沿岸道路」が必要です。

～有明海沿岸道路「鹿島～諫早」をつなぐ～

高速道路からのアクセス向上が鍵！ 自然豊かな太良温泉への来訪を期待!!


『星降る露天』

『有明海の朝日』

『有明海を望む』

『自慢の蟹御膳』

女将から課題の声

・宿泊客の約6割が高速道路を利用されるが、ICから1時間掛かるので敬遠されがち。

整備後は

所要時間が短縮!!

所要時間｜武雄北方IC⇒太良温泉地域

［整備前］ 約64分 → ［整備後］ 約48分

約16分短縮

※ H27全国道路街路交通情勢調査より算出

所要時間｜諫早IC⇒太良温泉地域

［整備前］ 約68分 → ［整備後］ 約29分

約39分短縮

※ H27全国道路街路交通情勢調査より算出

女将の期待の声

・移動時間の短縮で、修学旅行生などの新規集客増を期待。

・近隣市からの通勤時間も短縮されるため、労働力不足の解消に希望が持てる。

佐賀県では、外国人入込客数が増加傾向にあり、観光需要が高まっています。高速ネットワークからのアクセスが向上することにより、太良温泉地域への来訪客増加が期待されています。

【佐賀県を訪れる外国人】

出典：RESAS 外国人訪問分析 都道府県 年間データ

ピックアップ

『洗肺（シーフェイ）』スポットとして人気上昇

佐賀は中国人観光客から、きれいな空気を吸う『洗肺（シーフェイ）』ができる場所として人気が高まっている。

出典：佐賀新聞 2019.7.8 19面

「高速道路からのアクセス向上が将来の旅館業発展の鍵」

太良温泉を支え発展させるための「道路」が必要です。

「太良温泉（女将の会）座談会」 2019. 1. 23開催」より

旅館業の未来のため、私たちには有明海沿岸道路が必要です。

太良温泉（女将の会）座談会～わたしたちの有明海沿岸道路をどう使いたい～」の様子

●九州各地に温泉はあるが、太良は朝日や星空がきれい。
地場ものの魚介類が魅力で、なかでも竹崎カニが一番の魅力です。

●来られるお客さまの約９割程度が自家用車やレンタカーで来られ、そのうち約７割は高速道路を利用。
高速道路ICから１時間以上かかるのでは遠すぎて敬遠されがちです。

●有明海沿岸道路の整備で高速道路からのアクセス性が向上することが、旅館業の未来にとっては鍵です。

●修学旅行生を受け入れたいが、高速道路へのアクセス性の悪さから早朝の出発となり児童に負担をかける結果となる。
●有明海沿岸道路が整備されれば、移動時間の短縮となり修学旅行の集客につながる可能性がある。

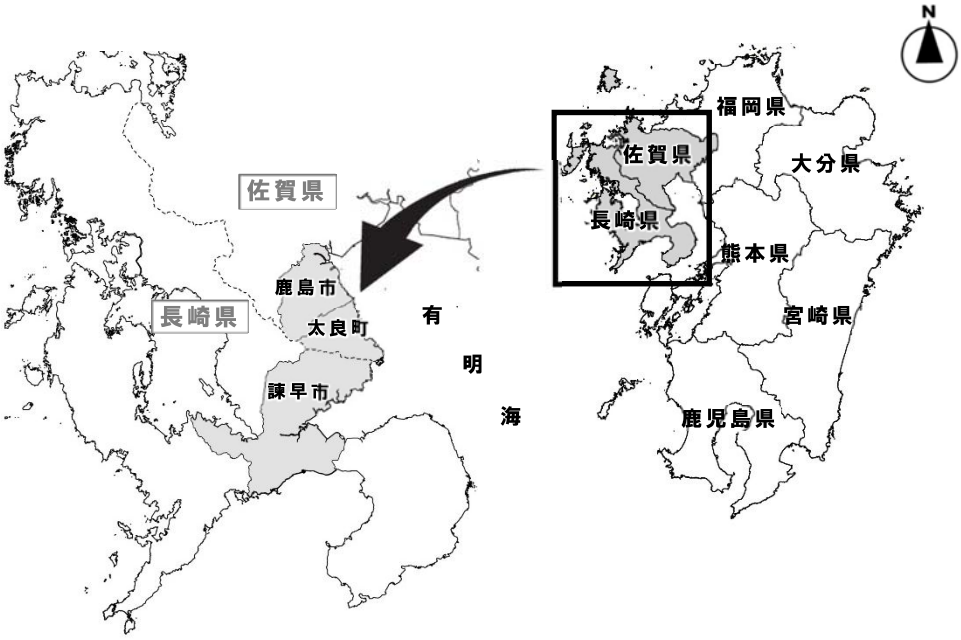
●お客様が増えてほしいですが、一方で働き手不足も深刻です。
●有明海沿岸道路が整備されれば、近隣市町からの通勤が楽になり、働き手解消の希望が見える。

▼冬場のイメージが強いカニですが実は年中おいしい！特に夏場の雄はおススメです！

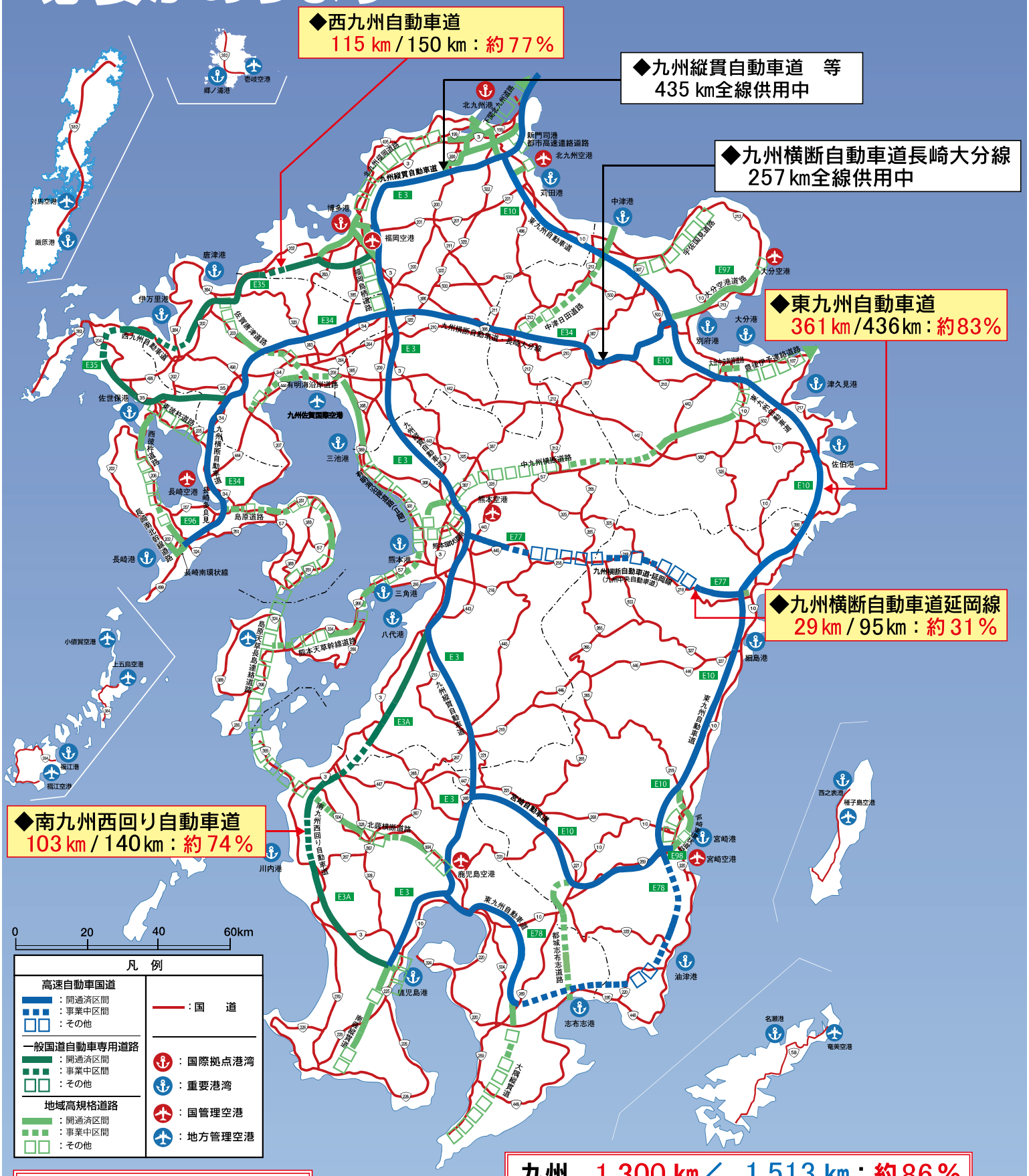
太良温泉を支え発展させるための「有明海沿岸道路」が必要です。

有明海沿岸道路西部地区建設促進期成会

会　長	長崎県諫早市長	宮　本　明　雄
副会長	佐賀県鹿島市長	樋　口　久　俊
監　事	佐賀県太良町長	永　淵　孝　幸
会　員	長崎県諫早市議会議長	田　川　伸　隆
〃	佐賀県鹿島市議会議長	角　田　一　美
〃	佐賀県太良町議会議長	坂　口　久　信



九州が自立的に発展していくためには、真に必要な道路整備を計画的に推進する必要があります



開通延長 / 総延長	開通率
九州　1,300 km ／ 1,513 km	約 86％
全国　11,882 km ／ 14,000 km	約 85％

九州：平成 31 年 4 月 1 日現在　　全国：平成 31 年 4 月 5 日現在

九州国道協会